

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101437		
法人名	社会福祉法人 致遠会		
事業所名	グループホーム サンハイツ女の都		
所在地	長崎県長崎市女の都3丁目1番6号		
自己評価作成日	令和 4年 9月 9日	評価結果市町村受理日	令和5年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年 10月 31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、ご入居者に安全安心、そして、健康で、笑顔がたくさんあふれる生活の日々を提供できるように、職員が健全で、笑顔でご入居者に接することができるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念には「自分らしい生活」「人権の尊重」が織り込まれており、職員は入居者が最期までその人らしく生活できるよう、日々の支援に努めている。新型コロナ禍で外出や面会に制限がある中、毎月の便りでは日常の様子を掲載する等、家族支援に注力している。また、全居室に睡眠センサーを設置してのデータ管理の他、今年度からタブレット導入した業務改善を目指すなどICT化を進めている。サテライト型事業所として2年目を迎え、本体事業所や法人の訪問看護師と連携し、看取りの実例も重ねながら、万全な医療体制を構築していることは家族の安心と信頼にも繋がっている。入居者の「自分らしい生活」に向けて、生活リハビリにも焦点を合わせた支援を強みとし、理念の具現化に取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の具現化を意識し、職員一人ひとりが、ご利用者様の状況を確認し、共有を図りサービスの提供を行っている	法人における新人研修で理念の意味や目的の理解を深めている。また、全職員には日々の実践の中で法人の冊子「愛フィロソフィー」を項目毎に振り返れるような言葉掛けを行っている。職員は理念にある「自分らしい生活」に基づき、入居者の思いに寄り添い、具現化に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍、中断している	新型コロナ禍によりホームの裏手にある幼稚園児との関わりや行事などでの地域交流が途絶えているが、収束後には再開できる見通しである。自治会に加入している他、家主である2階の住民とは、災害対策等でも協力を得ており、地域との繋がりが確認できる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方々へのあいさつ程度		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対応できていません	新型コロナウイルス感染防止のため、昨年度から引き続き、書面会議で対応し、入居者の健康状態や事故報告等を報告している。ただし、会議を昨年10月以降開いていない。また、開催できない旨を地域住民である運営推進委員には伝えているが、行政には報告していない。	省令にある確実な年6回の会議開催に向けて、書面会議であっても確実に実施していくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要な時は、報告、連絡、相談を行うようにしている	今年度は、行政からオンラインによる感染症対策に関する研修等の案内があり参加している。また、コロナ禍により集団指導が変更となり、現在は資料にて必要な情報を得ている。その他、運営上の手続きや不明な点を問い合わせ、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる	身体的拘束等の適正化のための指針を整備している。身体拘束廃止委員会を所長と管理者が3ヶ月に1回開催し、その後全職員へフィードバックしている。また、管理者がグループホーム連絡協議会のオンライン研修を担当し、虐待防止・身体拘束をしないケアの周知を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等には参加できていないが、成年後見人制度の件は、周知できている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問をお尋ねすることは行っていないが、ご理解いただけるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望については、真摯に対応させていただいている。また、ご要望がないか聴き取りも行っている	ホームは、家族に毎月ホーム便りと入居者の様子を記した手紙を添えて郵送している。現在コロナ感染予防対策として、玄関先で職員が家族と面談している他、電話連絡は随時行っている。家族からの要望を受けて、入居者の写真を手紙に添えたり、担当からのコメントも今後の予定としており、サービス向上に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場等は、職員主体でサービスの提供を行ってもらっている。意見や提案は、否定することなく一緒に考え対応できるようにしている	現在コロナ感染予防の一環として、職員会議の形態が書面中心となっている。提案伺い書を活用し、職員は業務内容や必要備品等の気づきやアイデアを出し合っている。管理者及び所長は、日常的に職員と顔を合わせ、意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	左記の内容が整うように努めて頂いていると思う		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記と同じ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	左記の内容が整うように努めて頂いてと思う		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	行っている 居室担当を決め、要望の拾い上げに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	行っている 十分な聴き取りとは言えないが、傾聴につとめている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応している 最近、入所を直前に迎えた方の生活の場として、ご家族と話し合い、希望に沿う介護保険施設の紹介を行った		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	左記の内容を目標とし、業務的にならないように意識している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との絆は、大切にしている。こちらからは、通信でご様子をお知らせするように取り組んでいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、場所の関係維持ができていない状況 ご利用者様との会話の中で、馴染みの場所の回帰を試みている	現在コロナ感染予防のため、外出及び面会に制限を設けている。職員は、入居者との会話から馴染みや習慣を継続できるよう支援している。得た情報は個人記録に記入し職員は情報共有している。ただし、入居者基本情報への反映は今後の取り組みとなっている。	コロナ感染予防のため外出や面会に制限がある中で、外部との関係が閉鎖的にならない支援に繋げるためには、入居者の基本情報が必要と思われる。アセスメントと共に入居者基本情報の整備に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり合いは、厳しいものがあるが同じ空間で生活している馴染みの顔として、関係性が出来上がっていると思う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談事など依頼があれば、フォローしていく心づもりです		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中から意向を引き出すことができるよう取り組んでいる	入居者の思いを引き出すために、職員は入居者の会話を遮らず、日常的に傾聴の姿勢で接している。七夕の短冊に願いを書く企画で、入居者の思いを掘り起こすよう取り組んでいる。会話が困難な入居者には、声のトーンから検討し、声を掛けており、得た情報は、個人記録に記入し情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話で、キーワードを投げかけ、拾い上げができるように工夫している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実践している 申し送りなどで、変化があれば情報共有するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状、ご家族や関係者を含めての意見交換など対応できていない 必要時にご家族へ電話をし確認することに留まっている	利用開始から3ヶ月の暫定プランを立て、その後、長期1年、短期6ヶ月の介護計画を作成している。その都度本人・家族の意向を取り入れており、介護計画書でも詳細に文書化している。本人の持つストレングスに基づき介護計画を立て、医師や看護師の意見を取り入れながら、定期的なモニタリングを重ね支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	見直しにつながる資料として、記録はしっかりととっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様化できるように、私たち自身も柔軟性を 持てるようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今のところ地域とかかわることができていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	対応している	協力医をかかりつけ医としており、定期的な往診を受けている。入居前のかかりつけ医や他科受診の際は、家族同行により通院し、結果内容を介護記録に記載し職員間で共有している。法人の訪問看護師が週1回健康状態を確認しており、夜間緊急時等も主治医と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携が取れるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	左記のように取り組むことができるようにしていく	昨年度は1例の看取りの事例がある。入居時に、重度化した場合の指針を、家族へ説明し同意を得ている。重度化した際は本人の状態に合わせその都度、医師を交えた意向の再聴取や説明を行うこととしている。今年度2月の研修計画にはターミナルケアを予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練までは定期的に行ってはいないが、これまでの経験を活かして看護師の助言をもらいながら対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	左記のように取り組事ができるように頑張ります	新型コロナ禍の為、年1回の消防署立会いが中止となっている。毎月の自主訓練では、毎回火元を変更した避難経路の確認、コンセントや配線の点検等様々な取組が確認できる。ただし、夜間を想定した避難訓練を実施していない。また、自然災害に対する避難訓練の実施と、ホーム独自の自然災害マニュアルの作成はこれからである。	日中想定と同様に、夜間想定での避難訓練、自然災害の避難訓練の実施が待たれる。また、自然災害においては、ホームの立地条件を基にした独自のマニュアルを作成し、全職員に周知を図ることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき取り組んでいる	入居者の人権に配慮することを理念に謳い、職員は入居者の人格を尊重した支援を行っている。必ず声掛けし、トイレ介助や入浴など羞恥心に配慮し接している。個人情報、事務所で管理し、写真等の使用について詳細な確認を家族に行っている。職員の守秘義務の周知徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような働きかけに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様が、日々満足して頂けるような支援に努めたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれとまで言えないが、髪の毛を整えるだけでも、見栄えが違う。いつでもブラッシングできるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様が対応できることは、見守りしながら行って頂くようにしている(テーブル拭きなど) 盛り付けなど工夫し、美味しく頂けるようにしている	食事は外部業者に委託している。検食は、法人グループ内で当番制である。入居者の様子や感想は、日々配達時に業者へ伝え、業者は次の献立に活かしている。入居者の嚙下に合わせた食事形態は、職員が対応している。行事食や敬老会の特別な出前など、食事が楽しくなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスは、常に意識している 水分量については、目標を定め、飲水して頂いている 水分摂取が厳しい方などは、好みの物をゼリーにして対応		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実践している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	しっかりと取り組んでいる 日中はすべての方トイレ誘導している	職員はトイレ誘導し、トイレでの座位による排泄を支援している。チェック表に排泄支援状況を記録し、入居者の生活リズムを把握している。情報を基に、失禁ゼロを目指し対応している。職員はパッド使用の見直しや介助内容を検討し、入居者の不安軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	実践している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所都合で、入浴日など振り分けているが、好みや状況に合った支援を行っている。	週2回を目安に、入浴支援を行っている。リフト浴を整備し、全入居者が浴槽に浸かり入浴を楽しんでいる。入浴日以外は、足浴や清拭を行っている。入浴の目安時間を入居者に告げ、スムーズな入浴誘導となっている。好みの湯温調整、シャワーの活用など、個別の入浴習慣に合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	文言の通り対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人、理解に努めている 業務日誌を活用し、情報共有を図り確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張りや喜びのある生活を送っていただきたいが、お一人お一人の対応は追いついてない状況 気持ちは「なんとかせんば」である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍外出等は行っていない。	現在コロナ感染予防のため、外出は制限している。その中でも、感染状況が減少傾向にあった8月の精霊流しでは、入居者が玄関先に出て精霊船を見送っている。また、日常的にリビングの窓を開放したり、テラスで外気浴を行っている。家族の協力を得て、通院などの外出もコロナの市中感染の状況に応じて検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お一人のご利用者様のみ対応。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時には対応できるようにしている 携帯電話を持っている方も居られます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	左記のように取り組みたいと努力しているところ	民家を改築した家庭的な造りである。採光良いリビングではレコードの音楽が流れ、入居者がソファに集い和やかな表情で過ごしている。随所に手すりを設置し、自由に行き来できるよう支援している。職員は、毎日の清掃や換気を行い衛生管理に徹すると共に、テーブルにはパーティションを取り付ける等感染症対策に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間なので、どうしてもご自身の食卓椅子に座られることが多い。声をかけ、ソファなどでリラックスして頂けるように誘導している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	左記のように心がけているが、日常業務に追われていることが現実である	居室は本館と別館にあり、別館では、昇降機を使用している入居者もいる。持ち込みに制限はなく、家族の写真や位牌等がある他、推理小説を読んだり、これまでの暮らしを継続する様子が窺える。夜間は睡眠センサーを活用し、安全に安心して暮らせるよう努めている。職員は換気や温度調節、清掃を行い、環境整備を担っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	左記の通り。実施中		